

# 医療用医薬品添付文書DB

## ■ 概要

- ・ 医療用医薬品における「テキスト版」、「PDF版」の添付文書情報のデータベースです。
- ・ 添付文書の記載内容の参照及び検索などにご利用いただくことが可能です。
- ・ 医療用医薬品のPDF版添付文書は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）の掲載にあわせた“リアルタイム”でのご提供が可能です。

## ■ 特徴・機能

- ・ 薬価基準収載医薬品および生活改善薬約20,000品目を収載しており、個別医薬品コードで管理しています（2025年4月現在）。

## ■ 目的・利用場面

- ・ テキスト版を使用することで任意の項目の絞込みや、目的に合った自由なレイアウトでの表示が可能のため、医療機関システムや調剤薬局システムにおいてDI検索にご利用いただけます。
- ・ 調剤や服薬指導時の参照用として、PDF版を用いて実際の添付文書を確認することが可能です。

# ■ システム、Web等での表示例

## 『ロキソニン錠60mg』の添付文書情報（抜粋）

\*\* 2024年10月改訂(第3版)  
\* 2022年10月改訂(第2版)  
製造：幸田製薬  
有効期限：13年

鎮痛・抗炎症・解熱剤  
日本薬協方 日本薬協方  
**ロキソニン錠60mg**  
ロキソプロフェナトリウム水和物錠  
**ロキソニン細粒10%**  
LOXONIN® TABLETS, FINE GRANULES

承認番号	承認開始
特許番号	特許開始
薬価	1996年7月
薬価10%	1996年7月

**2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)**

- 2.1 消化性潰瘍のある患者〔プロスタグランジン合成抑制により、胃の血流量が減少し消化性潰瘍が悪化することがある。〕〔9.1.2 参照〕。
- 2.2 重篤な血液異常のある患者〔血小板機能障害を起こし、悪化するおそれがある。〕〔9.1.3 参照〕。
- 2.3 重篤な肝機能障害のある患者〔9.3.1 参照〕。
- 2.4 重篤な腎機能障害のある患者〔9.2.1 参照〕。
- 2.5 重篤な心機能不全のある患者〔9.1.4 参照〕。
- 2.6 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2.7 アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者〔アスピリン喘息発作を誘発することがある。〕〔9.1.5 参照〕。
- 2.8 妊娠後期の女性〔9.5.1 参照〕。

**6. 用法及び用量**

効能又は効果	用法及び用量
下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛	通常、成人にロキソプロフェナトリウム(無水物として)1回60mg、1日3回経口投与する。
関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、歯痛	頓用の場合は、1回60～120mgを経口投与する。
手術後、外傷後並びに拔牙後の鎮痛・消炎	通常、成人にロキソプロフェナトリウム(無水物として)1回60mgを頓用する。ただし、原則として1日2回までとし、1日最大180mgを限度とする。また、空腹時の投与は避けさせることが望ましい。
下記疾患の解熱・鎮痛	通常、成人にロキソプロフェナトリウム(無水物として)1回60mgを頓用する。ただし、原則として1日2回までとし、1日最大180mgを限度とする。また、空腹時の投与は避けさせることが望ましい。

**3. 組成・性状**

3.1 組成

販売名	有効成分	添加剤
ロキソニン錠60mg	ロキソプロフェナトリウム水和物(日量)60.1mg (無水物として60mg)	塩基薬品ヒドロキシプロピルセルロース、二酸化チタン、乳糖水和物、ステアリン酸マグネシウム
ロキソニン細粒10%	ロキソプロフェナトリウム水和物(日量)113.4mg (無水物として100mg)	ヒドロキシプロピルセルロース、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、二酸化チタン、乳糖水和物、ステアリン酸マグネシウム

3.2 製剤の性状

販売名	製剤	色	直径 (mm)	厚さ (mm)	重さ (mg)	識別コード
ロキソニン錠60mg (断入)	錠剤	こげり	9.1	1.1	250	SANKYO 157
ロキソニン細粒10%	細粒	—	—	—	—	—

4. 効能又は効果

○ 下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛  
関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、歯痛

○ 手術後、外傷後並びに拔牙後の鎮痛・消炎

○ 下記疾患の解熱・鎮痛  
急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)

- 禁忌(次の患者には投与しないこと)**
2. 1. 消化性潰瘍のある患者〔プロスタグランジン合成抑制により、胃の血流量が減少し消化性潰瘍が悪化することがある〕〔9. 1. 2参照〕。
  2. 2. 重篤な血液異常のある患者〔血小板機能障害を起こし、悪化するおそれがある〕〔9. 1. 3参照〕。
  2. 3. 重篤な肝機能障害のある患者〔9. 3. 1参照〕。
  2. 4. 重篤な腎機能障害のある患者〔9. 2. 1参照〕。
  2. 5. 重篤な心機能不全のある患者〔9. 1. 4参照〕。
  2. 6. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。
  2. 7. アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者〔アスピリン喘息発作を誘発することがある〕〔9. 1. 5参照〕。
  2. 8. 妊娠後期の女性〔9. 5. 1参照〕。

- 効能又は効果**
1. ) 次記疾患並びに症状の消炎・鎮痛：関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、歯痛。
  2. ) 手術後、外傷後並びに拔牙後の鎮痛・消炎。
  3. ) 次記疾患の解熱・鎮痛：急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)。

- 用法及び用量**
1. ) 次記疾患並びに症状の消炎・鎮痛(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、歯痛)、手術後、外傷後並びに拔牙後の鎮痛・消炎：通常、成人にロキソプロフェナトリウム(無水物として)1回60mg、1日3回経口投与する。頓用の場合は、1回60～120mgを経口投与する。
  2. ) 次記疾患の解熱・鎮痛(急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む))：通常、成人にロキソプロフェナトリウム(無水物として)1回60mgを頓用する。
- なお、年齢、症状により適宜増減する。また、空腹時の投与は避けさせることが望ましい。
- (用法及び用量に関連する注意)
7. 1. 他の消炎鎮痛剤との併用は避けることが望ましい。